

# ウエルネス木村(認知症対応型共同生活介護事業所)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 評価結果概要表

作成日 21年4月10日

### 【評価実施概要】

事業所番号	1870800123
法人名	社会福祉法人 坂井福祉会
事業所名	ウエルネス木村
所在地	あわら市自由が丘2丁目15番23号 (電話) 0776-73-7788

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井市光陽2丁目3-22		
訪問調査日	平成21年2月19日	評価確定日	平成21年4月10日

【情報提供票より】 (20年12月31日 事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年4月20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 10人、非常勤 2人、常勤換算 11.3人	

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	6 階建ての	2 ~	階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,833 円	その他の経費(月額)	円	その他実費	円
敷金	有 (円)			無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無		有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	100 円	
	または1日当たり		1,300 円		

### (4)利用者の概要 (12月31日 現在)

利用者数	17 名	男性 6 名	女性 11 名
要介護1	7	要介護2	5
要介護3	3	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	1
年齢	平均 80.5 歳	最低 55 歳	最高 89 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人至捷会 木村病院・坂野歯科医院
---------	---------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームはJR北陸線の芦原温泉駅から徒歩5分の位置にあり、新興住宅地の中でひと際目を引く6階建ての建物の2階にある。この建物は同法人が運営する複合型のケアハウスであり、グループホームの他にもデイサービスやショートステイ等の在宅サービスを実施している。グループホームはどの居室も十分な広さが確保され、洗面所、トイレも各部屋に完備されており、床は転倒時の怪我防止のための緩衝材が使われている。2ユニットが同じ階に配置され、仕切る扉も開放されており、入居者の行き来や交流も自由である。共有空間も広々としており、リビングの配置は入居者と相談して決めており、和やかな雰囲気である。見晴らしの良い大きな窓からは近隣の様子や四季の移り変わりを存分に見ることができる。ホームの理念に基づき、管理者をはじめ職員は笑顔を決して絶やさず、入居者の個性を大切にケアに努めている。また、医療と福祉の統合化が図られ、24時間の医療・看護の支援体制の下で安全・安心な環境が整えられている。ホームのある複合型施設には多くのボランティアや地域住民が訪れるため、入居者も一緒に交流している。地域との交流も徐々に深まってきており、火災等災害時には相互に応援する関係が築かれている。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題である「地域との付き合い」については、昼間人口の少ない地域環境を踏まえ、入居者の友人や地域のボランティア等がホームに遠慮なく訪れてくれるように、行事等の都度広報している。また、「食事を楽しむ支援」については、毎月1回「自炊の日」を設け、食材の買出しから調理、盛り付けまで入居者の希望を聞きながら行い、楽しみながらの食事となるように実践している。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価の意義を十分に理解し、職員の意見を聞きながら自己評価に取り組んでいる。また、自己評価・外部評価結果を踏まえ、できることから改善に努めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は区長、民生委員、入居者家族、市の地域包括支援センターや坂井地区の広域連合職員等で構成され、2か月ごとに開催されている。会議では、ホームの運営状況の報告の他、外部評価結果とその改善に向けた取組みの報告もなされている。また、委員からは地域と合同での夏祭等の企画や坂井地区の他のホーム入居者との交流等の提案も出され、活発に意見交換がなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部7、8)
	毎月1回、入居者ごとに作成したホーム便りを家族に送付するなど家族とのつながりを大切に、自然に意見交換できるような関係づくりに努めている。また、施設の受付やホームのフロアに意見箱を設置して、家族等から自由に要望や意見を出してもらえるようにしている。さらに、年1回満足度調査を実施して、その結果を母体施設の広報紙上で公開している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	周囲は、昼間人口の少ない新興住宅地であり、近隣住民との日常的な交流が持ちにくい。ホームとしては町内会に加入し、また、入居者の馴染みの人や地域のボランティア等がホームを訪れて、自由に交流してもらえるように働きかけている。現在、ホームをPRするための便りを年1回発行して地域にも回覧しているが、今後は、具体的なホームの様子や行事予定等を掲載した広報紙をより定期的に発行するなど、ホームが地域住民にとってさらに身近になるような取組みを期待したい。

## 2. 評価結果（詳細）

■は、重点項目。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>理念に基づく運営</b>			
		<b>1 理念の共有</b>			
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に家庭的な雰囲気や本人本位の支援に取り組むことを分かりやすく表現したグループホーム独自の理念を設け、ホームの壁に掲示している。		地域の意見をグループホームに活かすという意味では、さらに地域交流や地域貢献を推進するホームの役割や姿勢等今後盛り込まれていくことを期待したい。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は毎朝理念を唱和し、笑顔とその人らしさを大切にするという理念を常に念頭に置いた入居者の生活支援に努めている。		ホーム内に理念が複数掲示されているが、外部評価結果やアンケート等の情報を開示しているエレベーターホール付近にも大きく分かりやすく掲示することで、事業所としての姿勢を示し、職員の自覚と責任につなげることが期待される。
		<b>2 地域との支えあい</b>			
■	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、また、日常的に入居者の馴染みの人や地域のボランティア等がホームを訪れ、交流している。また、ホームをPRするための広報紙も年1回閲覧している。		ホームの様子や行事予定等を掲載した広報紙をより定期的(季刊)に地域に発行するなど、ホームが地域住民にとってさらに身近になるような取り組みを期待したい。
		<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
■	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を十分に理解し、職員の意見を聞きながら自己評価に取り組んでいる。また、評価結果についても、できることから改善に努めている。母体施設の広報紙に評価結果の一部が掲載されている。		
■	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は区長、民生委員、入居者家族、市の地域包括支援センターや坂井地区の広域連合職員等で構成され、2か月ごとに開催されている。会議では地域との共同によるイベントの企画やホーム利用者との交流等に係る意見交換の他、評価受審後の改善状況等も報告して、サービスの向上につなげている。		
■	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の地域包括支援センター職員が運営推進会議に参画している。また、入居者に関すること、サービスに関することをその都度相談している。		
		<b>4 理念を実践するための体制</b>			
■	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、入居者個々の生活の様子等を記載した「ホーム便り」を家族に送付する他、遠方の家族には電子メールを利用するなど適切な報告に努めている。また、ホームによる入居者の金銭管理状況についても定期的に報告している。		
■	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の受付やホームのフロアーに意見箱を設置し、家族等が自由に要望や意見を出してもらえるようにしている。また、年1回満足度調査を実施し、その結果を母体施設の広報紙上で公開している。		
■	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はあっても、基本的に同施設内で行うことになっている。施設内の交流が多く、入居者の精神的なダメージを最小限に抑えるような配慮がなされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>5 人材の育成と支援</b>			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による内部研修の他、外部研修にも計画的に職員を派遣している。また、研修に参加した職員による報告が書面によってなされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会をはじめ隣接の介護保険事業所とのネットワークにも参加し、サービスの向上に向けた情報交換や職員間の交流を深めている。		
		<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に同施設内のデイサービスやショートステイを利用し、馴染みの関係を築きながらスムーズに入居できるように配慮している。また、職員は、笑顔や親しみのある会話を通じて入居者が不安を感じることなくホームの生活に馴染めるように働きかけている。		
		<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員は、サービスを受ける側・支援する側といった一方的な関係ではなく、職員は入居者の話に癒され、励まされ学びながら互いに支え合うような関係づくりがなされている。		
		<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> 1 一人ひとりの把握			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者がその人らしく生活できるように個々の思いを大切にしている。思いを言葉として伝えることが困難な入居者には行動や表情等からその思いを汲み取るように努めている。		
		<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人の心身の状況、家族の希望、関係者や職員のカンファレンスでの話し合いを踏まえて作成されている。また、本人のできること・できないことを把握して計画に反映している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3か月に1回見直しがなされ、1か月ごとにチェックがなされている。また、状態変化時にはその都度見直しがなされている。家族には毎月、生活の様子や本人の状態を報告している。		
		<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同施設内のデイサービスやケアハウスとの合同行事で多くの人との交流を図っている。また、医療面について、法人グループの看護師との24時間連絡体制を整え、入居者の状態変化時には速やかに対応できるようにしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診については、入居者やその家族の希望に応じており、受診結果に関する情報も把握するようにしている。場合によっては、職員も受診に同行し、かかりつけ医に情報を提供している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合であっても医療行為を必要としない間はできるだけホームでの生活が継続できるよう支援している。医療行為が必要になった時には協力病院等への入院による対応となることについて、入居者本人と家族、ホーム関係者間で確認している。		
		<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b>		
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム独自で個人情報の取り扱いに関するマニュアルがあり、適切に管理されている。また、法人内で個人情報保護に関する研修も実施されている。サービス面では居室に洗面所、トイレが完備され、オムツ等の交換も居室にて行われ、プライバシーや一人ひとりの尊厳に配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは特に日課は定めず、入居者一人ひとりのペースに合わせて、食事や掃除等、できることをしてもらうようにさりげなく働きかけている。		
		<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は施設の栄養士が立てているが、副食は調理の一部を入居者ができる範囲で職員と共に行っている。主食(ご飯)の量は基本的に入居者の好みに応じ、職員は見守るようにしている。また、1か月に1回「自炊の日」を設け、入居者の希望を聞き、食材の買出しから調理に至る一連の過程を楽しみながら行える支援をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的には月水金の9時から15時までとなっているが、希望がある時は同施設内のデイサービス等での入浴を職員の付き添いで行っている。		
		<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や調理等生活上の役割があらかじめ当番化され、フロアに掲示されている。当番は1か月ごとに変更するなど偏りがないようにし、また強制はせず自発的な活動のきっかけとなるように配慮している。百人一首、俳句、読書等入居者一人ひとりが自由に楽しめるような支援もなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者はホーム近隣の散歩や買物等に適時出かけている。また、毎月1回の「自炊の日」には食材の買出しにも出かけている。		今後は、事業所が企画する行事の時だけでなく入居者一人ひとりの思いを汲み取り、行きたい場所への外出支援を実現できるような、より個性の高い支援の取り組みが期待される。
		<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの出入り口を兼ねているエレベーターは、暗証番号の入力が必要であり、入居者が自由には利用できない。過去の外部評価の結果を受け、暗証番号による使用制限を解除する試みが午後の時間帯に少しずつ行われている。		エレベーターの暗証番号の一時解除について、試行結果を検証し、鍵をかけないケアの実践に向けて取り組みを進めるとともに、入居者が日々の生活に閉塞感、拘束感を感じることがないように、一人ひとりの気分や状態に応じた外出支援等の取り組みの充実を期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災等の災害を想定した避難訓練を年2回実施している。緊急連絡網を整備し、職員を対象に災害時対応に関する研修も実施している。また、近隣地区、施設間で相互に応援する申し合わせがなされている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士により、一日の栄養バランスやカロリーの管理、特別食への対応等がなされている。また、入居者一人ひとりの食事・水分摂取量が記録され、適切に把握されている。		
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広々としており、各ユニットに畳の間が設置され、自由に寛げる場所が用意されている。明るさや室温は適切で、壁面には利用者の手作りの作品が掲示されており居心地がよい。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は十分な広さがあり、洗面所、トイレも完備されている。家族の写真等が飾られている部屋もあるが、部屋が広く備え付けの収納が多い分だけ、使い慣れたものに囲まれた暮らしという印象の薄い部屋もあった。居室の入り口には入居者の名前と法人理事長が撮影した花の写真等が掲示され、自室を認識できるようになっている。		居心地の良い居室にするために、ホームから家族への継続的な働きかけとあわせて、入居者本人の意向を確認しながら、事業所としても空間づくりへのより一層の工夫が望まれる。

自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>理念に基づく運営</b> <b>1 理念の共有</b>			
1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作成している。		
2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念についてはフロアに提示して、申し送り時毎日唱和している。		
3	家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	1月の便りに載せている。また、来訪時に目につきやすいよう、フロアに理念を掲示している。運営推進会議を通じて、理念の浸透を図っている。また、地域の方にグループホームの存在を知って頂く為、地域向けの広報誌を配布した。		今後も定期的に地域に向け、広報誌を出していきたい。
	<b>2 地域との支えあい</b>			
4	隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	当事業所は、6階建ての2階に位置し、近所の住民が来難い状況である。当施設内のデイサービスやケアハウスとは日常的な交流に努めている。		運営推進会議等を有効に活用し、相互理解を深めつつ、地域とのつながりを図りたい。
5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	周りが新興住宅のため、つながりがあまりないのが現状である。		今後、地域と合同の夏祭りを実施する予定である。
6	事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	立地が形成途中の新興住宅地のため難しい状況である。		今後、交流を深めて、地域の現状を把握した上で取り組みについて検討していきたい。
	<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の外部評価で低かった項目(レイアウト、理念)についてカンファレンスで話し合い、改善に取り組んできた。		今後も同様に取り組んでいきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や、包括支援センターの職員、区長、民生委員、広域連合の職員に、外部評価の結果を報告。どの様に改善するとよいか、地域の交流をどの様に進めると良いか等アイデアを出してもらっている。来年度から消防所からも職員が来る予定。		今後も同様に取り組んでいきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に、運営推進会議以外にも訪問してもらっている。		今以上に連携を密にしていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部、内部の研修で学んでいる。今後、当グループホームで1名の利用者が成年後見制度の活用を行う予定。		今後も研修会に参加していきたい。該当する利用者がいた場合は、支援していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部の研修会に参加し、虐待防止の徹底に努めている。		今後も、研修会の参加や、事業所内の勉強会等で、学んでいきたい。
<b>4 理念を实践するための体制</b>				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を基に十分な説明を行い、同意をもらっている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人の不満、苦情に対してはグループホームの職員だけにとどまらず、施設全体で受け入れられる体制にしている。		施設外の外部者へも表せる機会を検討していきたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	グループホーム便りに、毎月個別で本人の活動の様子(写真)や、連絡事項、健康状態を記載している。又、金銭管理については、施設側の預かりになっている利用者に関して出納帳を作成し、レシート領収書の保管を行い、使用状況を毎月家族に報告を行っている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員を設け、苦情や不満を訴える事が出来るようになってきている。不安や、不満に対して、迅速に対応している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務カンファレンスを適時行い、意見や提案を話し合い、反映させている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況の変化に対しての勤務の調整は、必要時には行っている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はなるべく最小限にとどめている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、施設内の研修会の機会を設けて参加している。外部の研修も、順番に研修に参加している。職員には、資格の取得を促している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修には参加をして、意見交換、情報交換を行っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に職員一人ひとりと個別面談の機会を設け問題解決に努めている。職員には労働時間の超過にならないよう促したり、休憩時間がきちんと取れるように取り組んでいる。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課を行うとともに、職員には資格の取得を奨励している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	家族、本人の生活面での要望を聞いて、なるべく沿えるように取り組んでいる。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	家族、本人の生活面での要望を聞いて、なるべく沿えるように取り組んでいる。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	専門的なりハビリが必要な利用者で希望があれば、協力病院のりハビリの利用を行うなど、対応に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	他の利用者となじめる様に、利用者同士の雑談の中に職員が仲介しながら参加して、打ち解けれる雰囲気を作っている。又、家族にも面会の機会を多く持って頂いたり、馴染みの物を家から持ってきて頂いている。		
<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	極力ワークルームにこもらず、利用者と同じテーブルに座り、雑談を交えてカルテに記録を行うなど、共に支えあう関係を、心掛けている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会をされた場合には、本人の近況の報告を行い、家族の要望も聞いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	在宅での介護疲れから離れた為か、家族も入所当初より穏やかになっている場合が多く、本人との関係も良くなる場合が多いが、上手くいっていないケースもある。面会の際には、本人の話題に触れ、職員が本人の良き理解者として、家族との架け橋に慣れるよう努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	盆や正月には、なるべく帰省を家族にお願いしている。又、電話に関しては、特別な事情が無い限り家族や馴染みの人に連絡出来るようになっている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が雑談できるよう職員が会話の仲介を行ったり、他の利用者となかなか馴染めない利用者に関しては、職員が関わったりと出来るだけ、孤立しないよう工夫を行っている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて、心掛けている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>		<b>1 一人ひとりの把握</b>		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを立てる場合には、継続的に本人の様子を伺ったり、グループホームでの生活はどうか尋ねている。困難な場合は、担当の職員を含め、カンファレンスを開き、話し合いを行っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞き取りを行い、その情報は、カルテに記載をしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプランの立案前に、本人の状態について話し合いを行ってから支援の方向性を決めている。状態の悪化や変化が見られた時には適時話し合い、支援方法を決めている。		
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランを立てる場合には、継続的に本人の様子を伺ったり、グループホームでの生活はどうか尋ねている。又、家族の面会時等に希望を伺って、担当の職員を含めカンファレンスを開き、内容を決定している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はカルテに午前、午後、夜間に分けて記録を行っている。3ヶ月毎にプラン作成の為に担当者会議の他、適時にカンファレンスを行っている。		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	専門的な機能訓練が必要な場合等は、併設施設の専門職に相談を行ったり、本人の希望によっては母体の協力病院で、リハビリを行っている。		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	実績なし。		必要に応じて取り組みについて検討したい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	実績なし。		必要に応じて取り組みについて検討したい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	実績なし。		必要に応じて取り組みについて検討したい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者の希望を確認し受診を行っている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	支援している。(協力病院)		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	支援している。(協力病院)		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	支援している。(協力病院)		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や終末期は必要に応じ関連病院、関連施設にて、支援する旨を入居時に確認し、入居後も方針を共有している。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化した場合や終末期は必要に応じ関連病院、関連施設にて、支援する旨を入居時に確認し、入居後も方針を共有している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人の情報について関係者と話し合い、生活暦等を書面で提供している。</p>		<p>今後はセンター方式を活用し、その本人の生活面での情報提供を細かに伝えられるよう検討していきたい。</p>
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>		<p><b>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b></p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者のプライバシー保護に関する研修の実施や「個人情報保護に関する指針」を定めている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>利用者にたいして、命令口調にならないよう「～しましょうか」と促す口調を心がけている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>グループホームの日課に沿って1日を過ごしているが、極力個人のペースが尊重されるよう心掛けている。</p>		<p>できるだけ、個人のペースで1日を過ごせるような日課が出来ないか今後も検討していきたい。</p>
<p><b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b></p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人や家族の要望を聞いて対応している。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者のできる範囲で、職員と一緒に準備から後片付けまで支援している。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>医療的な制限が特でない場合は自分の部屋や、フロアの冷蔵庫を利用しておやつ等を管理して頂き、好きな時に食べて頂いている。医療的な制限がある場合は、預かり、適時本人に渡している。</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各部屋にトイレがあるため、プライバシーは保たれている。排泄については失禁の有無を確認したり、排泄チェック表を用いて、個別の誘導時間を設定している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、月、水、金の午前9:00から午後3:00頃までの間に行っている。それ以外の日でも本人の希望や、汚れてしまった場合には適時シャワーを使用してもらっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人のペースに合わせた規則正しい生活が送れるよう心掛けている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	女性は家事の当番を決めたり、男性は、棚づくりなどに参加して頂いている。また、春から秋までは畑で野菜を作っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理して、外出時にお金を渡す場合と、家族から小遣いとして本人に渡して、自己管理している場合がある。自己管理の方の場合は5,000円程度所持している。自己管理のリスクに関しては家族に納得して頂いている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や、畑にでたり、買物や外食も行っているが、歩いて行ける店などが近くにないため、買物や、外食の日時はホーム側で決めて行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食や季節により花見など外出の機会を設けている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特別な問題がない限りは自由に行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人が面会をされた場合には、本人の部屋に通し、お茶を出してゆっくりしていただけるように気をくばっている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束に関する手引き」に職員全員が目を通し、ホームのマニュアルとしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室はフリーになっている。エレベーターには暗証番号がかかっているため自由に出ることは出来ないが、午後2:00～3:00までの時間限定で開錠を行っている。		今後は更に長い時間、暗証番号の解除を出来るように取り組んでいきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	行えている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的に危険な物はワークルームで預かり、使用時に本人に渡している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	大きな事故を予防する目的で、転倒等があった場合はカンファレンスを開き、今後の対応を話し合う。その後ヒヤリハット報告書を作成して職員で、情報を共有している。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年間計画に基づき勉強会を実施している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回実施している(内1回は夜間想定)。		地域と災害に係る協定を作る準備をしている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	サービス利用の契約時にリスクに関しての説明を行っている。利用を開始後は、リスクの多い利用者家族の方に関しては報告を行って、対応について相談を行っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の急変時には看護師に連絡を行い、指示や対応について話し合っている。場合によっては協力病院に速やかに受診している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	連絡ノートやカルテに通院時の薬の情報を記載しているので、職員は目を通して業務にあたったっている。本人の状態も申し送りで確認している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべくフロアや、施設周辺の散歩を行うように利用者に働きかけている。水分補給も促しており、チェック表で水分量や、排便があったかどうかの確認も全員行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に出来る利用者には声をかけ、不十分と思われる利用者に対しては介助も行っている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養部から献立が上がってきている為、栄養面では、バランスが取れている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設の感染症の予防マニュアルに準じて実行されている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁、まな板の消毒、布巾は頻回に交換を行っている。食材は、併設施設の栄養部から上がってきている為、新鮮で安全な食材を使用している。		
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	併設施設の2Fにある為、親しみやすく出入りできる環境ではないが、なるべく親しみが持てるように植物を多く取り入れる等、工夫は随時行っている。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行っている。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間でくつろげるように座椅子を置いたり、共用フロアに本棚を置いたりくつろげるような工夫を試みている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族、本人と相談の上行っている。		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床時、昼食後、おやつの後には換気を行っている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋はバリアフリーでゆとりを持った造りとなっていて、車椅子の利用者でも移動が行いやすくなっている。居室内の床材に転倒時の衝撃を緩和できるクッションシートを使用している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所が分からない利用者には、トイレと文字を入れたり、本人の部屋に飾りをつけたりしている。		
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでは、洗濯物を干したり、プランターに花を植える等活用している。施設の畑もあり、季節の野菜の収穫も行っている。		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
<b>サービスの成果に関する項目</b>				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者との関わりを大切にして、体調や行動の変化を見逃さないように気をつけて支援を行っています。明るく笑顔の多いホームになるよう日々努めています。